

# 福井大学技術部主催 平成12年度「機器・分析技術研究会」を開催して

実行委員会委員長 橋 谷 茂 雄

## 準備について

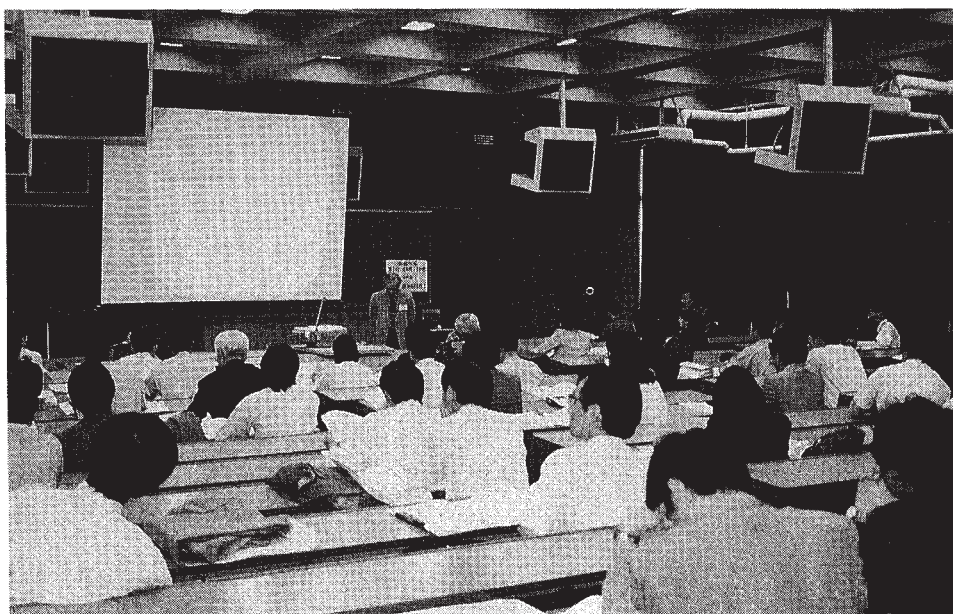
平成12年度機器・分析技術研究会（第6回）は福井大学技術部の主催により開催し、2日間は全国より116名の技術系職員が集い、口頭発表20件、ポスター発表20件の発表による活発な討論と技術交流の場となりました。

機器・分析技術研究会は平成7年度に分子科学研究所において、これまで高エネルギー研究所、核融合研究所の3国立共同利用研究所が持ち回りにより開催されている「技術研究会」の1分科会として発足しました。当時の参加者の中で「是非毎年続けたい」との多数の声により、継続開催可能な方法として3研究所による技術研究会とは別に「機器・分析技術研究会」として各大学等が毎年持ち回りで担当することが話し合われ、平成8年度は大阪大学産業科学研究所技術室、平成9年度は静岡大学工学部技術部、平成10年度は名古屋工業大学技術部、平成11年度は東北大学金属材料研究所技術部の主催により開催され、そして、平成12年度については福井大学技術部が開催を引き受ける運びとなりました。

福井大学において機器・分析技術研究会の開催の話題が出たのは3年以上前のことであり、まだ「機器・分析技術研究会」の認知度も低く、開催に至るまでには決して平坦ではありませんでした。福井大学技術部メンバーの理解と協力により、平成11年7月にまず準備委員会を立ち上げ、平成12年1月には実行委員会および実行委員会の中に運営委員会を発足させて開催に向けて動き出しました。開催までに準備委員会は4回、実行委員会は2回、運営委員会は6回開催し、さらに、運営委員会の中で庶務担当、懇親会担当、会場担当にわかれて具体的な実施に向けた計画、運営に当たりました。

## 日程について

これまで機器・分析技術研究会は11月に開催するのが慣例のようになっていますが、会場の確保を考慮して夏休期間中の2日間、平成12年9月28日（木）・29日（金）としました。開催校の都合による開催日程ですが、アンケートの結果によると参加者の7割強がこの時期でよいとの回答でした。しかし、主催する側からみると、年度があらたまってから開催までの期間が短く、特に予算執



口頭発表会場風景

行でやや苦しい面がありました。

#### 発表会会場について

百数十名の参加者とポスター発表会場を考慮して福井大学教育地域科学部1号館を会場としました。講義室であり、発表会会場として必ずしも適しているとはいえませんが、実行委員会スタッフの努力の甲斐あって概ねスムーズに運べました。



ポスター発表会場風景

#### 懇親会会場について

工学部大会議室を会場としました。狭いことは覚悟の上で参加人数が多い場合には福井大学の実行スタッフは抜けることも考慮しつつ実行しました。福井大学からは技術部長をはじめ、福井大学学長、事務局長、庶務課長の出席を得て、91名の参加人数により開催しました。

大変和やかでよかったとの評を聞き、準備段階での心配、苦勞が報われました。

#### 発表について

発表形式はこれまでと同様に口頭とポスターの2形式としました。発表時間は口頭発表1件20分(発表時間15分、質疑応答5分)、ポスター発表は展示説明時間1時間とし、口頭発表会場におけるプレゼンテーション、1件2分を実施しました。

発表申込み件数については全く予想がつかず、締め切り日近くまで気をもみましたが、申込み予定最大件数、口頭20件、ポスター20件に一気に達してしまいました。そのために、特にポスター発表は件数に対して展示時間が短すぎるという問題が生じてしまいました。発表件数は今後も増える傾向にあると予想されるので、開催時間など工夫する必要があると思われます。

#### 参加申込方法について

参加申込、発表申込の90%以上はWebからによるものです。開催の案内などもっと積極的にWebを利用する工夫が必要であると感じました。

#### 参加費、懇親会費について

今回、参加費1,000円、懇親会費3,000円と事実上値上げいたしました。これは、実費の見積りから許される範囲であろうとの判断からです。

#### 運営費について

機器・分析技術研究会を開催するにあたって当初最も心配したことの1つは運営費のことでした。幸い、主に報告集の印刷、製本費と郵送料については校費が認められ、さらに、福井コンベンションビューロー助成金を受けることができ、会計上の運営は無理なく運ぶことができました。

#### おわりに

開催をお世話して、発足当初よりは各方面での機器・分析技術研究会への理解が深まってきたと感じます。しかし、まだ機器・分析技術研究会の開催を知る機会がない技術系職員がおられることも現実であることを知りました。

福井大学において機器・分析技術研究会を開催できたということは、ある意味で全国いずれの大学等でも開催できる例を示したともいえます。全国各地で開催することによって参加者を広げるとともに、機器・分析技術研究の実績を重ねていきたいものです。